

平成29年度の新入社員

●新卒者はどんな世代？

今年も新入社員が入社する季節となりました。今年3月に卒業したばかりの初々しい社会人は、どのような時代に生まれ、育ったのでしょうか。

今回は、新入社員との会話のきっかけや接し方のヒントとして、彼らの育った時代についてみていきます。

●好景気を知らない「ゆとり」世代

平成29年度の新卒者は、高校卒業後、すぐに大学へ進学した場合、平成6(1994)年4月2日～平成7(1995)年4月1日の間に生まれた世代で、いわゆる「ゆとり世代」と呼ばれる年齢層に該当します。

「ゆとり世代」に明確な定義はありませんが、一般的には2002年度から2010年度までに、1年間でも義務教育を受けた世代(1987年4月2日～2004年4月1日生まれ)とされています。

そんな世代が生まれた平成6年はどんな年だったのでしょうか。主な出来事を振り返ってみると、郵便料金の値上げ実施、リレハンメルオリンピック開催、6月には村山内閣が発足しました。また、日本人初の女性宇宙飛行士が誕生し、関西空港が開業した年です。各地で記録的な猛暑となり、大江健三郎氏のノーベル文学賞受賞も話題となりました。

景気については、バブル崩壊後期の減退のなか、政府が総合的な景気回復政策として15.3兆円の経済対策を実施した「カンフル景気」となりましたが、その後、アジア金融危機不況で景気が後退し、1999年初頭から2000年春頃にかけてのITバブル景気とその崩壊不況が起こり、低成長にとどまりました。

平成6年生まれが幼少期の1997年には、橋本内閣で消費税が5%に増税され、以降、約3年にわたり住宅投資や民間企業設備投資などの民間投資も急速に冷え込みました。そ

の一方、全国的に中高一貫校の設置が伸び、中学受験の割合も上昇傾向に。2007年には全国平均で約1割が私立中学校に進学しており、東京都だけでみると、その割合はおおよそ3割に達しています(文部科学省「学校基本調査」より)。

●中学・高校時代は

彼らが多感な中学から高校生活を送った平成19(2007)年～平成25(2013)年。中学校を卒業した平成22(2010)年は、記録的な猛暑が続き、熱中症患者が続出、野菜価格が高騰し、魚介類が不漁などの問題が相次ぎ、地球温暖化の深刻さが実感されました。

高校を卒業した平成25(2013)年は、2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催、富士山の世界文化遺産登録などが決定されました。全国で多発した自然災害では多くの支援の輪が広がったこともあり、「今年の漢字」は「輪」と、国民が団結することの大切さが再認識されたようです。

●フットワークの軽さに期待

また、毎年3月に「新入社員のタイプ」を発表している公益財団法人日本生産性本部によると、平成29年度の新入社員は「キャラクター捕獲ゲーム型」だそうです。キャラクター(就職先)は数多くあり、比較的容易に捕獲(内定)できた一方で、レアキャラ(優良企業)を捕まえるのはやはり難しく、スマートフォンを片手に情報収集をしながら、企業から企業へと歩き回る姿が、昨年話題となったスマートフォンの体験型ゲームに興じる人々の姿を思わせるこのことです。

レアキャラを探す情報収集能力と、どこへでも出向くフットワークの軽さを仕事に活かし、かつオーバーワークや電池切れとならないよう、ワークライフバランスを大切にしながら、世界中でヒットしたゲームのようにボーダーレスに活躍することが期待されています。

INFORMATION

会員様向け特典・無料

インターネットを使ったオンデマンド型のセミナー配信サービス！

「TMC ネットセミナー」を是非ご利用ください

◆インターネットに接続できるパソコンがあれば24時間いつでも、見たい時に、好きなだけ、受講可能

◆今月のお薦めは、「2017年の経済と世界情勢～米国新大統領とアベノミクスの活路～」

〈信州大学経済学部教授 眞壁 昭夫〉

◆サービスのご利用は弊社ホームページ(<http://www.tomin-tmc.co.jp/>)から → 「TMC ネットセミナー」